学習活動③【３年生】（ｉ）事前学習

(1) ガイダンス及び住みたいまちマッピング①

ガイダンスとして，まず１・２年生時の総合的な学習の時間のテーマや活動等のふりかえりを行った。それを踏まえて３年生でのテーマやねらい，内容等を説明を聞いたたのち，「住みたいまち」のイメージマップを作成し，社会参画活動のイメージにつなげた。

１・２年生時のふりかえりでは，プレゼンソフトを使って，これまでの実際の活動写真を提示しながら行った。写真を見せることにより，その時の思いや感じたことも含めて思い出すことができたのではないかと考える。

次に，３年生のテーマ等の説明もプレゼンソフトを使って行った。２年生までの活動との大きな違いという点で，企画から反省までの過程をすべて自分たちで行うことを伝えた。そして，これからの活動は，それぞれの興味や関心の強いこと，得意なこと，自分のよさを知りそれを生かして行うことを伝えた。

企画　→　交渉　→　準備　→　実行　→　反省
自分たちの手で主体的に！

そして，テーマを提示した。

テーマ
３年間のテーマ：住みたいまちプロジェクト
～ふるさとの明日を創ろう～
３年生：他と共に社会に参画する

「参加」と「参画」の言葉の意味の違いの説明を行い，活動イメージを想起できるように，昨年の３年生の活動を６つのカテゴリー（環境，生活，観光，教育，福祉，ものづくり）ごとに写真を提示しながら紹介した。３年生の活動の重要なポイントとして，「社会に参画する」ということがある。これまでの高齢者福祉施設訪問，職場体験学習とは違い，社会のニーズ，社会の中で必要性のある活動を考え実行しなければならない。そのためには，まず，社会の中の課題を見付け，そこから活動を練っていかなければならない。この出発点が重要であることを説明した。

授業の後半では，社会の中の課題発見の第一過程として，「住みたいまちとはどんなまち？」と問いかけ，それぞれイメージマップを作成した（**図１**）。イメージマップを書く中で，社会参画活動の具体的イメージが浮かび上がってくる

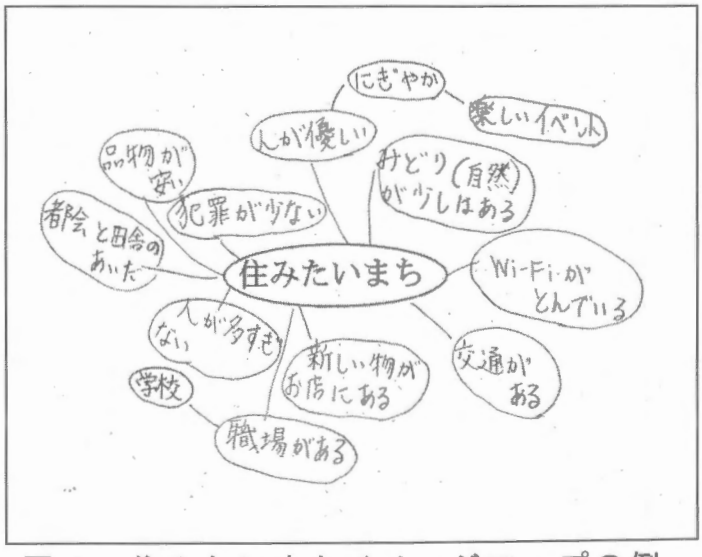


図１　住みたいまちイメージマップの例

ことを期待したが，生徒たちにとって「ふるさと島根（鳥取）」に思いを馳せて考えることは難しく，マップの枝がなかなか増えなかった。

また，生徒たちにとっては，自分たち中学生が，社会の中の課題を解決するということ自体を身近に感じることができなかったようである。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

・これまでのふりかえりの確認とこれからの見通しがもてるように，昨年度までの活動の写真を使いながら行う。

・「参加する」と「参画する」の意味・内容の違いを伝える。「参加する」とは，「ある種の会や団体に加入して、行事などに加わること」であり，「参画する」とは，「会や行事などの企画の段階から参加すること」である。

(2) 講演会「未来創造プロジェクト　～自分と地域の明日を創る～」
講師　しまね教育魅力化特命官　岩本悠氏

今後の学習活動に取り組む上で，ふるさとの現状，良さ，課題などに対する自覚と目的意識を高めたいと考え，講演会を行った。道徳の時間に扱った資料中の隠岐島前高校の魅力化プロジェクトの一員である岩本悠氏に，未来を創るヒントについて自身の経験を踏まえながら語っていただいた。

前半は，生徒にとって身近なアニメのキャラクターをモチーフに「未来を創るヒントを数多くさがす」という講演テーマ提示をしたあと，岩本氏の学生時代や会社員として取り組んできたことの紹介がされた。自分の好きなことや得意なことを生かして人や社会に貢献する「自他満足」の生き方や，多様な人々に出会って話を聞いたり新たなことに挑戦したりする「越境」などをキーワードに話が進んだ。成長スパイラルとして「目標」を設定し，行動にうつす際には「考動」し，その後「反省」し，そこからふたたび「目標」を設定するというサイクルを紹介されると，生徒はうなずき，納得といった表情でメモをとっていた。

後半はさらに，島根が抱える課題に向き合う時間となった。「私を惹きつけた島根の魅力とは何だろう」という岩本氏からの問いかけに，多くの生徒は「治安がいい」「人が優しい」などのプラス面を挙げたが，岩本氏は，「島根は重要課題の宝庫で，課題の先進地であることが魅力」だと話をされた。島根で人口減少や少子高齢化，財政難といった課題を解決することができれば，その取組は，高度成長を遂げた社会から持続可能な社会への曳船（タグボード）となる。「地域は世界に通ずる」という岩本氏のことばは，島根がどのようなところなのかを新たな視点で考える第一歩となった。

講演会の最後に，生徒が日常生活で解決したい課題は何かを挙げながら，課題解決とはどういうことかを考え，岩本氏とのやりとりの中で生徒は新たな気付きを得ることができた（**図２**）。生徒から

図２　学校内課題解決について話す様子

は「昼休みが短い」「文化祭がしたい」「東門から下校したい」などの学校生活上の課題が出た。これらの意見に対して，岩本氏は，「本当にみんなが解決したい・変えたいと思うことが課題だよ。自分達の工夫や視点の転換で何とかできるって考えられないかな」と問いかけた。生徒は，課題を解決しようとする際に，本当にそれが解決するべき課題なのかという，課題を吟味することの重要性と，問題だからといってマイナス面でとらえるのではなく，時間を有効に使う工夫の練習になると考える多角的に物事をとらえることの必要性に気付くことができたのではないかと考えている。

岩本氏は「未来は逃げない，逃げるのは自分だ」というメッセージを生徒に贈った。今後生徒が取り組む「ふるさとの明日を創る」活動はまさにふるさとの未来を自分が主体的に考えていかなければならない学習である。今回の講演を通し，生徒は島根の現状，良さ，課題などについてじっくりと考えることができた。また，ふるさとの課題を見付け解決しようとする際に，本気で取り組める課題設定にすることが重要なのだと実感を伴って理解することができた。

講演「未来創造プロジェクト　～自分と地域の明日を創る～」のふりかえりより

○島根県に 15 年住んでいる私たちだからこそ見えてくる島根の悪いところやよいところを挙げました。本気でやれば結果はついてくるということや私でもふるさとの明日を創ることができることなどを学びました。まだどんなことがしたいかははっきりと決まっていないけど，「授業でやらなきゃいけないから」ではなくて本気で取り組みたいです。

○一つのことをみんなが全力で取り組んだら，日本，地域，自分の明日を創っていけるし，イメージしたことを実現することができることがわかりました。イメージしないと人は行動できないと思います。なりたい自分がいるから人々は成長できます。課題は動けば必ず出てきます。その課題をどう解決できるのかが，一人一人の力が試されるのだと思います。どんなことにもくじけず負けず，たくさんの人に自分達の取り組みを伝えていきたいです。

○講演を聞くまでは、自分の未来の明確度があまりなくて何となく安定に暮らせれば幸せかなと思っていました。しかし，自分の一度きりの人生を自分らしくやりたいことにチャレンジしなければもったいないなと考え直すことができるようになりました。今自分がもっている好奇心を大切にし，どんどん積極的にいろいろなことに挑戦したいです。また，島根の魅力を見付けるために，日々宝探しをしている感覚でふるさと島根で生活したいです。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

・ふるさと島根の課題に取り組んでいる方の話を聞くことで，今後の学習への意欲を高められるようにする。

・話を聞くだけでなく，生徒同士の意見交流を取り入れることで，自分の問題として考えられるようにする。

・生徒の意見に別の視点からの意見を与えることにより，事象を多面的にとらえることのよさに気付くようにする。

・次時において，本時の内容を想起させることで，学習内容につながりをもてるようにする。

(3) 大学生とのパネルディスカッション

本活動では，島根大学から地域活動に参画する６名の学生を招請し，「自己を生かして地域に参画する～『社会参画』とは？～」をテーマにパネルディスカッションを行った（**図３**）。

図３　パネルディスカッションの様子

本活動のねらいは，実際に地域活動に参画している人々の話を聞くことを通して，自己の社会参画の足がかりを見いだし，今後の活動を具体的に考えさせることである。

パネリストはいずれも，環境，教育，農業，地域振興など，様々な分野で地域参画する学生たちである。パネリストには①活動の内容，②活動に参画したきっかけ，③自己の強みや関心をどのように生かしているか，④活動の成果や課題，についてそれぞれの視点から話をしてもらった。

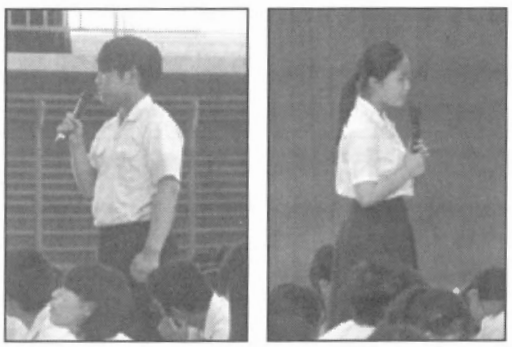


図４　質問している様子

一方，生徒たちからは「活動をしていて地域を変えられたと思うことは？」「環境問題について中学生にもできることは？」「活動資金など必要な物の集め方は？」など，多くの質問が出された（**図４**）。いずれの質問についても，体験談を交えて具体的に答えてもらうことができた。

また，最後はパネリストから生徒たちに向けて「大切なことは『どんな活動をしたか』ではなく『活動を通して何を学んだか』である」「『なぜ，自分はこれをしているのか』常に目的意識をもとう」など，熱いメッセージが贈られた。

今回は，パネリストが生の声でテーマについて語ることによって，これから地域に参画しようとする生徒たちが多くのヒントやアイディア，そして意欲を得ることができた時間となった。

「大学生とのパネルディスカッション」のふりかえりより

○今回は私たちと同じ目線で，「学生」という立場からのお話を聞くことができました。中学生の私たちに何ができるのかという疑問にも，色々な角度から答えてくださいました。例えば，沢山の人たちと話をして地域の課題について学び合うということです。また，今の生活を丁寧に見直してみることも中学生の私たちにできる活動の１つです。「学生でもできること」だけでなく，「学生だからこそできること」がたくさんあるということに気付かされました。

○私はふるさとのために何がしたいのか具体的に決まっていなかったので，気持ちはあっても，何をどうすればよいのかわからない状態でした。今回学生さんからは，美味しいのに規格外が理由で廃棄される野菜を何とかしたかったとか，子供の頃，お世話になった学童保育に恩返しがしたかったとか，たくさんの「きっかけ」を教えていただきました。それぞれに自分の好きなことや強みを生かしていきいきと活動されていました。私の一番の強みは，やっぱり島根県が好きなことです。私もそういう面から考えてみようと思いました。

○実際に活動をされている方々の話を聞いて，初めて気付いたことがたくさんありました。自分がしたいことが一番ではない，周囲を頼ることができるのも大切な力，自分たちの当たり前を疑ってみることも必要等々…これから難しい問題もあると思いますが，今日のアドバイスを生かしていきたいです。

【指導上の留意点と地域と連携する際の留意点】

・パネリストの選定にあたっては，本校３年生が設定する「環境」「生活」「観光」「教育」「福祉」「ものづくり」の６つの講座について具体的な体験談やアドバイスが聞けるよう，これらの分野に関わる活動を行っている学生に依頼する。

・パネルディスカッション本番で充実した議論を行う状況を作り出せるよう，パネリストとコーディネーターを担当する教員との事前の打ち合わせを十分に行う。

①パネリストには事前にテーマやねらい，事前学習で生徒たちから出てきた質問や意見を伝えることで，それらに沿った話をどのような文脈で話すのがよいかあらかじめ考えてもらうことができた。

②コーディネーターがパネリストそれぞれの立場や活動を把握しておくことで，より良い発言を引き出すために，誰にどのような発言を求めればよいか判断することができた。

(4) 住みたいまちマッピング②

ガイダンスののちに行った「住みたいまちイメージマップ」では，「ふるさと島根（鳥取）」に思いを馳せて考えることが難しく，マップの枝がなかなか増えなかった。その後の道徳「島に学ぶ」の学習や，しまね教育魅力特命官の岩本悠氏の講演会，社会参画活動を実際に行っている大学生のパネルディスカッションを経て，生徒たちの漠然としていた「住みたいまち」に対するイメージが少しずつ広がり具体化していった。その広がりを可視化するために，先に書いたイメージマップに書き足す活動を行った。事前学習から得た考え方や情報，地域を見る視点などにより，枝が増えていった。そしてその枝が，関心の高いことに結び付き始めて伸びていく生徒もいた。

右の**図５**は，ある生徒がガイダンスののちに書いたものであり，それに書き足したものが**図６**である。

この生徒は，将来，建築家になりたいと思っている。書き足した枝には，「テーマパーク」「動物園」「カッコイイ建物がある」「デザイナーズ」などの建築に関する言葉が増えていっている。

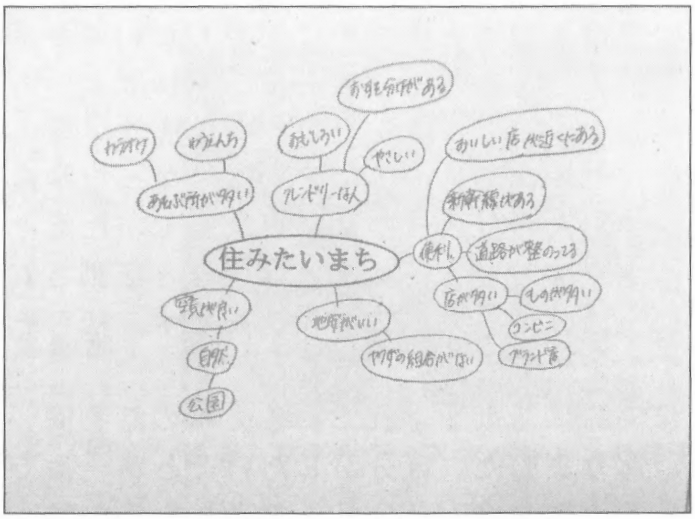


図５　住みたいまちイメージマップ①

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

・これまでの事前学習のワークシート等を見ながら，その時思ったことや考えたことを振り返りながら行った。

・誰が見ても書き足したものが分かるように，足した言葉は色ペンで書くようにした。

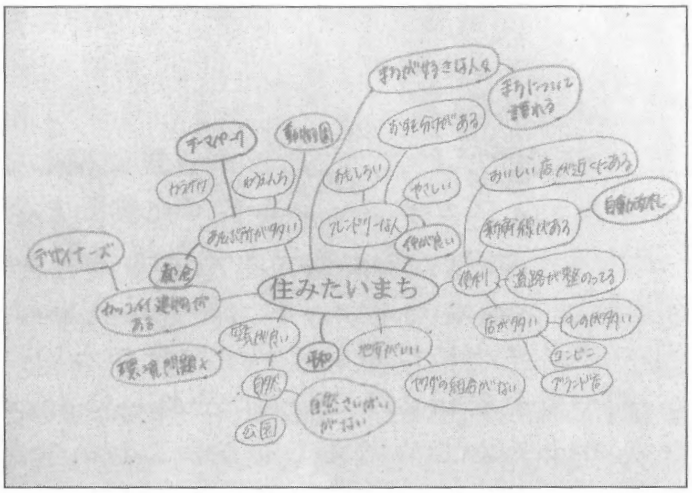


図６　住みたいまちイメージマップ②

(5) ＭＩ調査

大学生のパネルディスカッションで，社会参画活動を行っている大学生からは自分の強みを生かして活動を行うことが大切であるという話があった。生徒が主体的に社会参画活動を行っていくために，どんなことに興味や関心があり，得意なことや自分の良さを自己認識する必要があった。そこで，ＭＩ（Multiple Intelligence）調査を実施し，その結果から「自分の

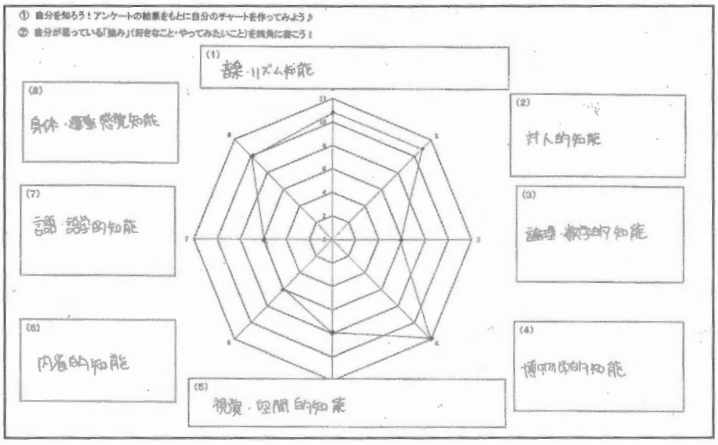


図７　生徒のＭＩ調査の結果

強み」を探る活動を行った（**図7**）。

後日行った希望講座アンケートの中に，自分の強みを生かして活動を行いたいという理由が多くみられ，主体的に社会参画活動を行うための手段として有効的であったと考えられる。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

・調査時に先入観を与えないように，ワークシート上のレーダーチャートに項目は載せず，後で伝えるようにする。

学習活動③【3年生】(ii) 社会参画活動

【環境】

1．講座名　環境講座

2．講座選択の理由

「昔はスズキがたくさん泳いでいた堀川に，いつの間にかスズキがいなくなったのはなぜだろう？」

環境講座には，生き物や釣りが好きで近年の川や湖の汚染，外来種生物の増加の問題に関心をもった生徒，星の観察や植物が好きで「空気のきれいな町を守りたい」と訴える生徒，「水の都松江」の豊かな水を利用した自然エネルギーを使って「安全・安心な町を目指したい」と考える生徒など，ふるさとの豊かな自然に愛着や興味・関心を寄せる生徒たちが多数集まった。

3．グループ分けとテーマ設定

KJ 法を用いてグループ分けを行い，各グループでテーマを設定した。グループとテーマは以下の通りである。

グループ	テーマ
外来種生物	自然と生き物の共生を目指して～堀川をきれいに～
宍道湖の環境	守ろう，美しい宍道湖～シジミのパワーと魅力，再発見～
堀川再生	～水の都を守る～松江の川の水質調査～
大気環境	目指せ，環境にやさしいまち～空気のおいしい故郷「松江」～
河川の水質	松江の川の環境問題にアクセス～ＥＭ菌は救世主となるか？！～
エネルギー	自然エネルギーで安全なまちづくり

4．活動内容

(1) フィールドワーク

図１　島根県環境政策課大気環境グループへの訪問

図２　認定 NPO 法人自然再生センターより講師招聘

地域の課題を見付けるために行ったフィールドワークでは，島根県環境政策課大気環境グループ（**図１**），松江市都市整備部河川課，日本シジミ研究所，

中国電力松江営業所などを訪ねたり，ＮＰＯ法人自然再生センターより講師を招聘したりして，松江市の環境問題やその改善方法・対策などについて話を聞いた（**図２**）。

(2) 体験活動

体験活動では，フィールドワークで見付けた課題の解決に取り組んだ。松江市主催の「松江堀川生き物調査」に３つの班が参加し，生物を通して堀川の水質状況を調べた。さらに，「松江堀川生き物調査」で学んだ調査方法を用いて市内の様々な河川や湖の水質調査にも挑戦した（**図３**）。また，水質改善を目指してEM菌溶液を作り，その浄化・消臭効果を検証した班もあった。

シジミの水質浄化作用を検証した班，苔の保水性や断熱性を検証した班は，平成28年11月13日に国際会議場で行われた「2016松江市環境フェスティバル」で学習の成果を発表し，宍道湖の環境保全や町の緑化をアピールした（**図４**）。

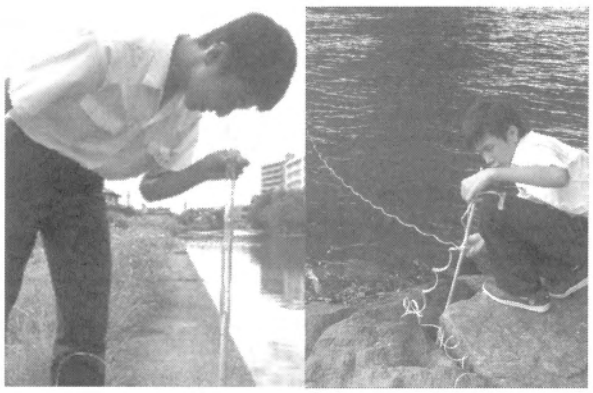


図３　川や湖の水質調査

図４　2016松江市環境フェスティバルでの発表

５.「住みたいまち」を目指して～成果と課題～

以上のように，環境講座では環境というテーマのもとで様々な視点から住みたいまちづくりを目指した。実効性や実用化にはほど遠いものもあったが，実際に地域の自然に触れることを通して，その豊かさや課題点に気付くことができた。

また，松江市には環境問題に熱心に取り組んでいる方々がたくさんいることがわかり，学習を通してその方々と交流できたことも大きな収穫であった。

一方，課題として一番に挙げるのは「テーマ設定」のあり方についてである。①地域の課題に根ざした活動を行っていくためには，課題を見付けるための学習活動を，３か年を通して設定していくことが必要である。②年間を通して追求し続けることができるテーマであるかどうかを，人材・場所・機会などあらゆる点から十分に検討した上で設定する。このことが学習の一層の充実につながるものと考える。

環境講座の生徒たちのふりかえりより

成果

⊙浄化実験に何度失敗しても，調べたり聞いたりして原因を考え続け成功につなげることができた。結果，探究心や班の団結力が育った。１回で成功しなかったことが逆に良かった。

○松江のことはわかっているつもりだったけれど，調べてみてこれまでの認識が覆されることがたくさんあった。
○自分で行動してみて問題解決の大変さがわかりました。そして，松江を良くしたいという気持ちもわいてきました。

課題

○大きなプロジェクトで時間も予算も足りなかった。
○スタートとゴールをしっかり決めて，計画を進めることの難しさと大切さを実感した。
○校外で出会った人との交流が一番ためになった。コミュニケーション力を身に付けることを生活の中で意識することがこれからの課題。

【生活】

1．講座名　生活講座

2．講座選択の理由

生活講座には「松江を安心・安全なまちにしたい」と考えた生徒，女性や子どもをターゲットにして，地元の食材を使ったスイーツのレシピの考案に関心をもった生徒，地元の名所を盛り込んだマップを作り，それを見ながらウォーキングを楽しんでもらい意欲的に運動してもらおうと考えた生徒など，人々の生活の基盤となる「衣食住」に興味・関心をもった生徒が多数集まった。

3．グループ分けとテーマ設定

KJ 法を用いてグループ分けを行い，各グループでテーマを設定した。グループとテーマは以下の通りである。

グループ	テーマ	
安全	安全マップを作ろう	駅から始まる安全都市～危険を感じないまちを目指して～
調理	島根の食材でスイーツを作ろう	島根の食材を使ったスイーツで島根の良さを再発見！～ずっと住みたい地産地消のできるまちへ～
	余った食材でお手軽レシピ	余って捨てられる食材を利用して簡単に作れるレシピを広めよう～環境によい町を目指して～
	シジミで新しいレシピを作ろう	島根シジミの消費量Ｎｏ．１を維持するために～シジミを使ったレシピの考案～
健康	ヘルシーなスイーツを作ろう	ヘルシーなスイーツでまちを健康に！～低カロリーなスイーツを広めて健康意識を高めよう～
	地域の食べ物で若者の健康改善を図ろう	バランスのとれたレシピで大学生の健康改善＆健康的な町づくり
	ウォーキングマップを作ろう	松江の魅力を再発見！～ウォーキングマップで地元の人に地元の良さを知ってもらおう～

4．活動内容

(1) フィールドワーク

各グループのテーマを追求するためには実態調査が必要である。そこで島根大学の食堂や松江駅前交番を訪ねたり，地域のマーケットであるみしまや（学園店）でお客様にインタビューをしたりして，地域の抱える問題やニーズについて話を聞いた（**図１**）。

図１　松江駅前交番での調査

(2) 体験活動

実態調査から得た情報をもとに，次のようにそれぞれのグループのテーマに応じた活動を行った。

安全グループはフィールドワークでの情報をもとに，わかりやすさを重視した地図付きの松江駅周辺交通安全マップ（**図２**）を作成し，写真や記載した内容について警察の方に最終の確認していただいた。その後，松江駅周辺で警察の方にも協力いただいて防犯マップを配布し，地元の方々に安全への注意喚起を行った。

調理グループは，フィールドワークで収集した情報をもとに使う食材を決定し，買い出しに行って試作した。調理法をまとめ，色使いや見やすさを工夫しながらレシピ本やポスターを作成した。駅前やスーパーでレシピの配布・掲示をして，地域に住む人々に発信した（**図３**）。

健康グループは，使う食材にかかる金額にも配慮して買い出しに行き，調理法を分かりやすくまとめてレシピが載ったパンフレットを作成した。またフィールドワークの情報をもとに，地元の史跡や名所などが詳しく載ったパンフレットを手書きで作成した。これらを大学の食堂（**図４**）や地域の公民館，寺院などに掲示したり，クックパッド（https://cookpad.com/recipe/4092056, 2017. 2.22 現在）に掲載したりして，地域や全国規模で発信した。

図２　松江駅周辺安全マップ

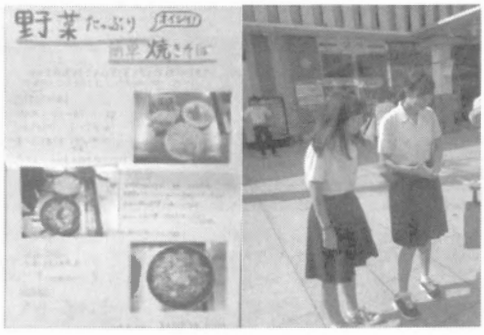


図３　レシピを配布している様

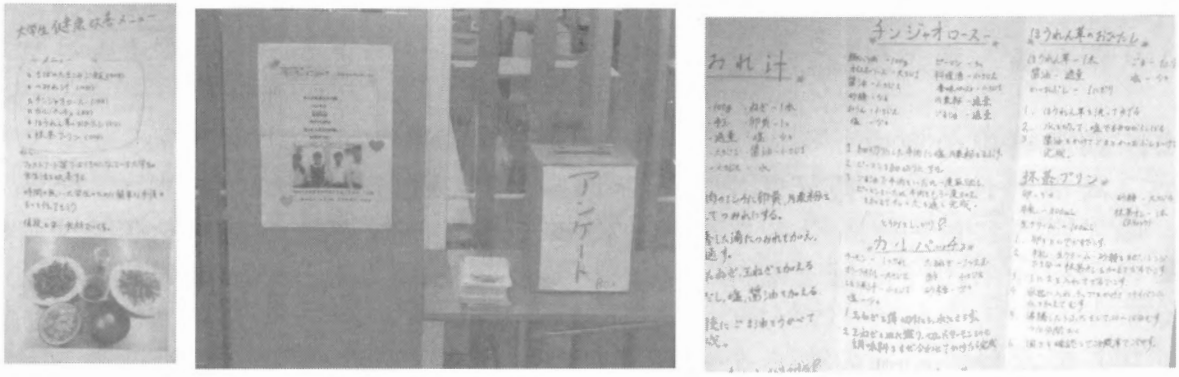


図４　大学の食堂に置かれたレシピ

5．「住みたいまち」を目指して～成果と課題～

生活講座では，住みたいまちを目指して地域の「衣食住」に関連したテーマを追求し，生徒たちなりに導いた答えを地域や全国に発信することができた。その成果として，島根には食材や名所などの素晴らしい「素材」がたくさんあり，地域の「人」の温かさを肌で感じることができた。こうした体験が次世代の島根を背負っていく生徒たちにとっての「住みたいまち」へつながっていくことであろう。

一方，「住みたいまち」をキーワードに地域の課題を考える作業が難航し，教師が想像した以上に時間がかかった。総合的な学習やその他の教科で，1年生の時期から「住みたいまち」をキーワードにして，地域の課題と向き合う時間を確保することができれば，地域への発信の仕方や内容がより充実したものになると考える。

また，教師・生徒どちらもフィールドワークや体験活動の見通しがもてず，計画的に活動を進めることができなかったことが，大きな反省点である。今年度経験したことを来年度に生かすとともに，他学年でも共有して見通しのある学習にしていきたい。

生活講座の生徒たちのふりかえりより

成果

○レシピ本を配布して喜んでくださる方が何人もいてとても嬉しかったし，作ってよかったなと思いました。島根の食材のおいしさだけでなく，島根の人の良さも知ることができました。

○今日は「見たい！」と思えるようなレシピをつくり，実際に配布してきました。配っていくとどんどん楽しくなり，笑顔ですると相手の方も嬉しそうに「作ってみるね！」と言ってくださり，自分も幸せな気持ちになりました。最後には「ちょうだい！」と自ら言ってくださる方もいて，島根の食でこんなに一つにつながれるのはすごいと思いました。

課題

○マップの中にアンケートを盛り込んでおくことを忘れていて，二度手間だった。

○レシピ通りに作った後に，食堂の方々に食べていただくことができなかった。（日程調整等がうまくいかなかった）

【観光】

1．講座名　観光講座

2．講座選択の理由

「島根をＰＲし，観光客をもっと増やしたい！」

観光講座には，動画やポスターを使って島根の観光地の魅力を伝えたい生徒，島根の観光名所や老舗を載せたパンフレットをつくり，それを観光客に配布することで魅力を伝えるだけでなく，交流を図りたいと思う生徒，女性を対象に，「食」を通して島根のよさを発信したい生徒など，島根の観光地や食文化に対

して興味や関心を抱いた生徒が多数集まった。

3．グループ分けとテーマ設定

KJ 法を用いてグループ分けを行い，各グループでテーマを設定した。グループとテーマは以下の通りである。

グループ	テーマ
パンフレット	観光客を増やし，人がたくさん来る活気のあるまち
	松江の魅力を多くの人に伝える
動画・ポスター	観光によるまちの活性化プロジェクト
動画	もっと島根を知ってもらおう
食	女性にとって魅力的な島根県をそば粉でＰＲ

4．活動内容

(1) フィールドワーク

島根の魅力を伝えるためには，島根の実態調査を行う必要がある。そこで，島根県商工労働部観光振興課に行き，島根がどのようなＰＲ活動をしているのかをうかがったり，島根大学や松江城などでアンケート調査をしたりした（**図１**）。また，島根県隠岐郡に焦点を当てたグループは，本校で隠岐に詳しい教員に話を聞いた（**図２**）。

図１　松江城でのアンケート調査

図２　隠岐に詳しい教員と話をしている様子

(2) 体験活動

フィールドワーク後の活動で作成したパンフレットを配布したり，観光施設にポスターを貼っていただいたりするなど，積極的に島根県の魅力の発信活動を行った。

パンフレットのグループは，協力して作り上げたパンフレットを松江駅で配布し，積極的に隠岐や島根県の魅力を伝えることができた。（**図３・４**）

動画のグループは，配信することはできなかったが，加除・修正を繰り返して年齢別にまとめた出雲の魅力についての動画を完成させることができた。

動画・ポスターのグループでは，ポスターを島根県立美術館，興雲閣，島根県立古代出雲歴史博物館の３施設に貼っていただくことができた。また，動画

を YouTube に配信することができた。

観光講座資料編完成：https://youtu.be/Z21Y1Pp-ViQ, 2017. 2.22 現在 観光講座紹介動画完成：https://youtu.be/tbWMqrHfmBU, 2017. 2.22 現在

この動画は後日，島根県観光振興課の Facebook ページで紹介していただいた（**図５**）。

食のグループでは，できあがった「そば粉クッキー」とそのレシピ及び島根県の観光スポットを載せたパンフレットを松江駅で配布した。外国の方とも関わり，島根の食について発信することができた。

図３　松江駅にてパンフレット配布

図４　松江駅にてパンフレット配布

図５　動画内容の確認をしてもらっている様子

５．「住みたいまち」を目指して～成果と課題～

以上のように，観光に目を向けて活動をしていく中で，たくさんの人の見方・考え方に触れ，島根県民の人柄の良さや観光施設の魅力などを再発見・再認識することができた。また，島根に住む地元の方々が島根をＰＲするためにたくさんの工夫や努力をしていることを肌で感じることができたことも成果の一つである。そして，このような活動を自分たちの力だけで計画・実行し，達成したことに対する感動を味わうことができた。それらは，今後の島根の未来を担っていく生徒たちにとっての糧となっていくであろう。

一方で，課題としてあげるのは，活動範囲の狭さである。YouTube に動画を投稿したグループがあったが，ほとんどのグループが県内だけの発信にとどまっていた。もっと視野を広げ，他の地域ではどのようなＰＲ活動を行っているのか調査したり，全国に島根の魅力を伝えることができるような発信方法を考えたりすることで，よりいっそう「住みたいまち」について多様な視点でとらえることができるのではないかと考える。

観光講座の生徒たちのふりかえりより

成果

○今までは，住みたいまちなど創れないという考え方でしたが，今回の活動で創れないのではなく，創るという考え方に変わりました。それは，実際に活動してみて様々な人（出雲の人や他県の人）が思っていることを直接聞くことができたり，地元の人が住みたいまちにするためにたくさんの努力をしたりしているということを肌で感じ体験することができたからです。

○社会参画活動を通して，私はより島根のことが好きになりました。当たり前だと思っていた風景や物全てが多面的にみると魅力がつまっているのではないかと感じることができました。
○３年生の総合は，１，２年生の総合と比べて自分たちで計画・実行するというのが多い活動でした。その中で目的を達成するにはどんなことをする必要があるのかなどを自分たちだけで考えることができたと思います。

課題

○これからは，日本語のパンフレットだけではなく，外国の方にも伝わりやすいような外国語のパンフレットをつくっていくことが課題。
○女性をターゲットにしたことは成功だったが，駅には出張で来ている男性が多かったので，そのことを生かせば，もっとたくさんの人に伝えられると思う。
○島根県外にもポスターを掲示する。

【教育】

１．講座名　教育講座

２．講座選択の理由

教育講座には，「楽器の演奏が得意なので交流に役立てたい」「英語を使って外国の人に地元のよさを PR したい」「体力には自信があるので幼児を思いきり遊ばせてやりたい」など,自分の強みを住みたいまちづくりに生かしていきたいと考える生徒が集まった。また，共通点として「人と関わるのが好き」「子どもが好き」といったコミュニケーションに対する意欲の高さ，および「島根の少子高齢化を食い止めたい」「高齢化に対応した健康づくりが必要」「外国人などあらゆる人にとって住みやすいまちづくりについて考えたい」など，地域の課題を人に関連する形でとらえている生徒が多い点が挙げられる。

３．グループ分けとテーマ設定

KJ 法を用いてグループ分けを行い，各グループでテーマを設定した。グループとテーマは以下の通りである。

グループ	テーマ
音楽１	音楽のあふれるまちをつくろう
音楽２	好きなことに挑戦できるまち～音楽体験を通して～
マナー向上	マナーを守って地域を好きになる
運動	運動で誰もが元気なまちづくり
国際交流	島根のよさを発信してもっと住みたくなるまちへ

４．活動内容

(1) フィールドワーク

教育講座では，フィールドワークに先立ち，まず生徒が企画する体験活動の受け入れについて交渉した。その上で，受け入れ先を訪問しフィールドワークを行った。各グループが島根大学教育学部附属幼稚園，たまち保育園，育英北幼

稚園（**図１**），嵩見保育所，島根大学国際交流課（**図２**）をそれぞれ訪問し，企画している活動の趣旨や内容を説明するとともに，どのような活動が実際に可能なのか，また，受け入れ先や対象者のニーズはどのようなものなのか，職員の方と意見を交わした。

図１　育英北幼稚園への訪問

図２　島根大学交際交流課への訪問

(2) 体験活動

フィールドワークを受けて，各グループで企画内容の課題の修正と体験活動に向けての準備を進めた。音楽グループは，附属幼稚園とたまち保育園を訪問し，演奏を披露したほか，楽器の紹介，園児との合同演奏，リズムあてゲームなどを行った（**図３・４**）。

マナー向上グループは，育英北幼稚園を訪問し，マナーについて考える自作の紙芝居を上演した（**図５**）。運動グループは，嵩見保育所の園児を本校に招き，校庭でミニ運動会を開催した（**図６**）。国際交流グループは，島根大学の留学生を対象に，島根の紹介プレゼンテーションやういろうづくり，抹茶体験など日本文化についての理解を深めるイベントを行った（**図７**）。

図３　附属幼稚園での演奏

図４　たまち保育園でのリズムあてゲーム

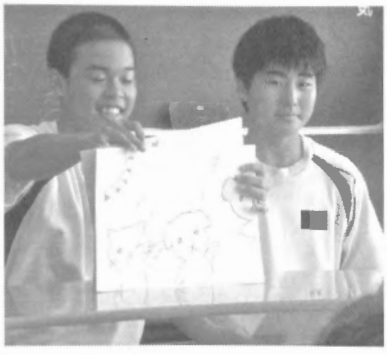


図５　育英北幼稚園での紙芝居上演

図６　嵩見保育所園児を招いてのミニ運動会

図７　島根大学での抹茶体験

5.「住みたいまち」を目指して～成果と課題～

以上のように，教育講座では人との関わりに重点を置きながら様々な視点から住みたいまちづくりを目指した。一度の体験活動がすぐに課題の解決に直結するものではないが，実際に地域の人々と関わりをもつことで，生徒は手応えを得るとともに新たな課題に気付くことができた。特に，受け入れ先の職員の方との関わりは，的確な助言や活動場面でのサポート，さらには働く上での姿勢や思いに触れる機会となるなど，生徒にとって大きな学びにつながるものであった。

今後の課題としては，体験活動を一過性のものにせず，地域の課題解決につなげるために継続性をもたせていくことが一番に挙げられる。そのためには，①地域の課題を見付け，解決に取り組む学習活動を，3か年を通して設定していくこと，②学年を超えて地域社会との関わりを継続させていくこと等，が必要になると考えている。

教育講座の生徒たちのふりかえりより

成果

○活動相手が幼児だったので，活動内容を簡単にできるように考えました。また，話すときは目線の高さを合わせて話したので，相手に応じた接し方をする力がついたと思います。

○当日は猛暑のため,職員の方と相談して種目の内容や時間をその場で変更し,子どもたちの健康・安全面にも配慮した臨機応変な運営ができた。園児の喜んだ顔が見られて嬉しかった。

○本番やそれ以前の打ち合わせから，園児の一緒に楽しんでくれる優しさや，先生方の親身になって自分たちと一緒に企画・活動について考えてくれる優しさが心の中に残りました。住みたいまちのヒントは，住んでいる人々からも得ることができるんだなという発見につながったと思います。

○私たちの活動では，留学生の方々を対象としたことで，言葉の壁がありました。しかし，これまでの様々な学びを生かして身ぶり手ぶりも使い，「なんとかして相手に伝えよう」という意識をもって取り組むことができ，コミュニケーション力が身に付いたと思います。

課題

○保育園の園児の目線から見ると自分たちの企画はどうなのか，小さい子どもたちと音楽はどう関わっているのか，社会参画するときには必ず相手がいて，相手のことを考えニーズに合ったことをしていかないといけないと気付くことができました。

○園児向けに演奏をしたことも少人数で演奏したこともないので少し不安でした。本番は計画通りに進まず大変でした。

○僕はもっと自分を出していいことに気がつきました。ふだんから失敗を恐れずに，もっと明るく笑顔でいこうと思います。

【福祉】

1．講座名　福祉講座

2．講座選択の理由

福祉講座を選択した生徒は，「ふるさとに住む全ての人や動物が幸せに暮らすために，どんなことができるのか」と考え，自分の強みや興味があることを生かしたいと思う生徒たちが集まった。

3．グループ分けとテーマ設定

福祉のテーマ設定をするために，KJ 法を行った（**図１**）。

グループ毎にどんな活動ができるのかを発表して，授業の最後に自分が福祉講座でやってみたい活動の希望を取った。その結果から，「音楽」「高齢者」「障がい者支援」「動物」の４つのグループに分けて活動を行うことにした。

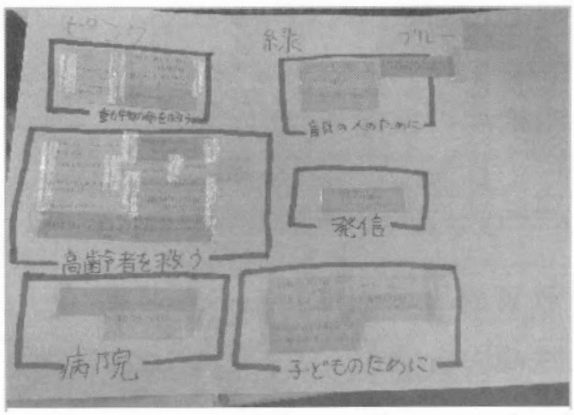


図１　テーマ設定のためのＫＪ法

グループ毎に以下のことについて考え，各班でテーマを決定した。

・みんなの強み
・どこで行えるのか。
・地域のニーズは何だろうか。
・どのような社会参画活動ができるのか。
・誰に協力してもらうのか。

グループ	テーマ
音楽	みんなが笑顔になるまちにしよう！
障がい者支援	障がいのある人もすみよい町にしよう！
高齢者	お年寄りが健康で暮らしやすいまちにしよう！
動物①	誰もが安全に暮らせるまちにしよう！
動物②	みんなが幸せに生きられる町にしよう！

4．活動内容

(1) フィールドワーク

グループで行いたい活動が実際に行えるのか。また，地域のニーズを確かめるために実際に働いている方や地域の方から話を聞く必要があった。そのため，フィールドワークを行った。地域の病院，城東公民館（**図２**），松江保健所を訪ねたり，視覚障がい者支援団体の方から話を聞いたりして（**図３**），それぞれのグループの課題を見つけることができた。

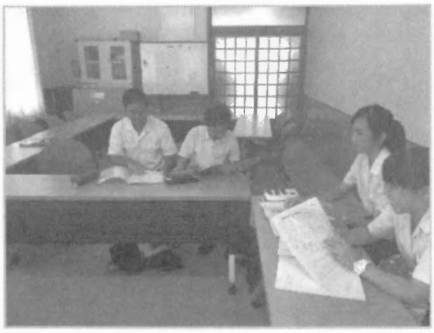


図２　城東公民館への訪問

図３　視覚障がい者支援団体の方と対談

(2) 体験活動

体験活動では，音楽グループは病院祭で演奏会を行った。聴いている人が笑顔になるように歌詞カードを配ったり，鈴を配ったりして，一緒に参加できるような工夫をした（図４）。視覚障がい者支援グループは視覚障がい者支援センター「ライトハウスライブラリー」で視覚障がい者の方が階段や横断歩道を利用するときの講習を受け，その手引き方法を動画で撮影し，校内で発表した。

また，盲導犬受け入れのパンフレットを置いてもらうために，地域のお店にお願いに行き，置いてもらうことができた（図５）。高齢者グループは，公民館で健康に良いクッキー作りを一緒に行い，そのレシピを配ることができた（図６）。動物グループの一つの班は譲渡会のイベントにボランティアとして参加した。直接呼びかけ，動物の引き取り手が見付かった。もう一つの班は地域のお店に作成したポスターやパンフレットを貼ってもらうお願いに行き，全てのポスターとパンフレットを置いてもらうことができた。

図４　病院祭での演奏会

図５　地域の店での活動

図６　公民館での活動

５.「住みたいまち」を目指して～成果と課題～

福祉講座では，福祉の視点で住みたいまちづくりを目指した。成果としては，７月に行ったフィールドワークで課題がはっきりしたことである。実際に殺処分される動物を見に行ったり，その現状を聞いたりしたことは，解決に向けて自分たちに何ができるのかを主体的に考えるきっかけになった。また，地域の人と積極的に関わることで，自分たちの活動に協力してくれる人の優しさに触れ，自分たちの住むまちの良さに改めて気付くこともできた。

一方で学んだことを発信する場をどのように設定するのかが課題として挙げられる。ポスターを地域に貼って啓発を促す班もあったが，ポスターのように一方的に発信する場合，地域の人の反応が見えないため，活動全体のふりかえりをすることが難しかった。

福祉講座の生徒たちのふりかえりより

成果

○この町に対する思いが変わったり，自分の考え方を改めて考えたり，思い直すことや新しい考えを手に入れることができました。というのは,保健所の方や今まで講座をしてくれた人など自分たちが学ぼうという姿勢を取ると，協力してくれる人がたくさんいたからです。もっと自分から動こうという気持ちになりました。

○活動をしている中で，地域や社会のために活動をしている方にたくさん出会ったことのように，地域をよくしようと活動をされている方がいるからどんどん住みよいまちになっていくのだなと思いました。

課題

○学んだことをどのように地域の人に伝えていいかに困りました。具体的に成果が得られる内容も考えていくことが大切だと思いました。

【ものづくり】

1．講座名　ものづくり講座

2．講座選択の理由

「役に立つもの・アイデアグッズをつくって地域の方々に利用してもらいたい」「ゴミを活用したアートや家庭で不要なものを利用して，美しいまちづくりに貢献したい」という意見をもった生徒が集まった。

集まった生徒は，アイデアを出して自分たちのオリジナルの物を開発しようと意気込んでいた。また，「電気をつくる」「リサイクル・廃棄物からものづくり」など環境への関心も高い生徒が集まった。

3．グループ分けとテーマ設定

KJ 法を用いてグループ分けを行い，各グループでテーマを設定した。グループとテーマは以下の通りである。

グループ	テーマ
発電	電気をつくり地域の方々に利用してもらおう
節電	松江のエネルギー消費の問題を需要と供給の両方から考え，地域に発信していく
再生可能エネルギー	島根で可能な発電方法を考える
チョークづくり	しじみの殻でチョークを作ろう
家庭ゴミの利用	家庭からでる不要物の利用を考える
産業廃棄物利用	おからの再利用

4．活動内容

(1) フィールドワーク

発電・節電と家庭ごみの利用グループは地域の大型店でアンケート調査を行った。家庭の電気利用や家庭から出るごみについての情報を得ることができたが，発電した電気を携帯電話やスマートフォンに充電するサービスを企画したが，個人の所有物を扱うこととして，実行が難しいことも分かった。

島根県環境政策課に行き，県内の電力供給状況と共に「島根県で波力発電が可能か」などの聞き取りを行った。また，市内のシジミ加工業者，学校近くの豆腐店にて廃棄物とその処理の仕方などについての聞き取りを行い，その後のものづくりへの方向性を決めることができた。

(2) 体験活動

フィールドワークで得た情報をもとに，ものづくりを開始した。

発電グループは様々な発電方法を考え，その小型モデルや自転車に自動車用

発電機を接続する大がかりな発電装置づくりにも挑戦した（**図１**）。

廃棄物利用グループは，シジミの殻をガストーチで加熱粉砕して粉末にし，チョークづくりを行った（**図２**）。また，豆腐店からいただいた「おから」を燃料や様々な料理に使えないかを探った（**図３**）。

フィールドワーク後も地域に出かけ，情報収集や使用済みコーヒー豆などの廃棄物を集める活動を続けた。

体験活動として再生可能エネルギーグループは，平成 28 年 11 月 13 日に国際会議場で行われた「2016 松江市環境フェスティバル」に参加して，島根県で有効な発電方法として，地域の木材の廃材や間伐材を燃料にした『バイオマス発電』を発電の実演を交えて紹介した。

家庭ゴミの利用グループと産業廃棄物利用グループは，松江駅周辺にて地域の方に，使用済みコーヒー豆で作った『消臭剤』やおからを煎ってティーバッグのようにした『おから茶』を紹介文とともに配布した。

図１　自転車で発電

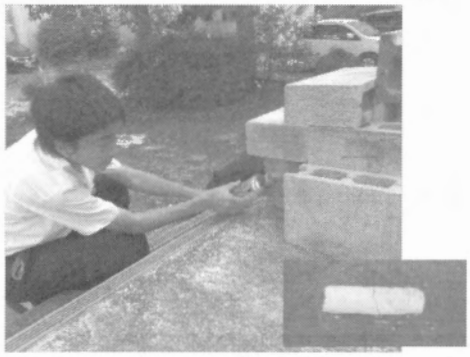


図２　ｼｼﾞﾐの加熱の様子とﾁｮｰｸ

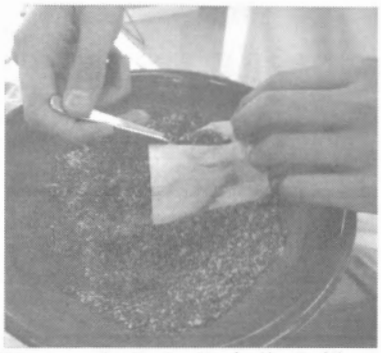


図３　おから茶を作る様子

5.「住みたいまち」を目指して～成果と課題～

作りたいものはあるが，「住みたいまち」に繋げることが難しいと感じる生徒もあった。結果的にはこの講座の全員が環境に配慮したものづくりを視点に活動した。

一つのものを作り上げるために，各教科で得た知識，思いつきや発想，工作技術などを活用し，地域の専門の方々からも多くのことを学びながら進めることができた。地域の方々と交流する中で，その道の「専門家」がいることを知り，地域のことを真剣に考えていることに触れることができた。

ものづくりには時間がかかる。失敗も何度も経験し，生徒は時間外にも方法の改善や作業を行ったが体験活動日までに間に合わなかったものもあった。生徒が行う活動であるが，テーマ決定，つくる具体物，作業プランの立案と変更をどこまで任せるかをあらかじめ決めておく必要があった。

ものづくり講座の生徒たちのふりかえりより

成果

○理科で習った電気，技術で習った設計・組み立て，数学的知識などを活用できました。

○地域の方と話してみて，自分たちの知らない方法で社会をよくしようとしていることも，とてもすごいと思いました。知識や技能をリンクさせて生活していきたいです。

課題

○時間が足りず地域に電気をつくって利用してもらう活動ができなかった。計画を立てて先を見通すことと，話しあうことが大切だと思いました。
○何度も失敗をし，何度も道を変更しました。うまくいかずに計画が崩れ，新しい考えをつくって実行する経験をしました。

平成28年度　Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」　活動一覧表

講座	班	人数	テーマ 住みたいまちに 結びついていること	仮説	社会参画活動の内容	成果	課題（来年度へ向けて）
環境	1	4	自然と生き物の共生を目指して ～堀川をきれいに～	堀川で増えているといわれている外来種生物について調べることで，昔の豊かな生き物が住む堀川再生のヒントを得ることができるのではないだろうか。	・認定ＮＰＯ自然再生センターの方を招待しての学習会 ・島根県環境保全課での聞き取り ・堀川での生き物調査実施 ・市内の河川・湖での生き物調査実施	・フィールドワークでは，詳しく外来種について学習することができ，堀川での生き物調査でその現状・実態を確認することができた。堀川における外来種生物の問題とは，増えすぎてしまうことにあることがわかった。	・調査・追究によって大きな課題をみつけることができたが，課題解決に向けて他の河川や湖でも生き物調査を実施してみたが，天候や日程不足で十分な調査を行うことができなかった。
	2	4	守ろう，美しい宍道湖 ～シジミのパワーと魅力，再発見～	シジミの水質浄化作用を実証し，多くの人たちにその効果や魅力を知ってもらうことで，宍道湖の宝であるシジミが育むきれいな水を守ろうという意識を高めていけるのではないだろうか。	・日本シジミ研究所の方の講義 ・シジミの水質浄化実験 ・おいしいシジミの見分け方・調理法の実験 ・環境フェスティバルでの発表	・宍道湖水の浄化を目指して，シジミの浄化作用に注目し，幾度の失敗を経て３回目の実験でシジミの水質浄化作用を実証することができた。減少するシジミを大切に育むべく，シジミの魅力の発見にも取り組んだ。宍道湖の環境や生態系に関心をもってもらう一助となった。	・ＦＷ先が遠く，また，実験に長時間かかるため，思うような情報・データを得るのに苦戦した。実験器具等についても十分な準備ができない中であったが，その都度善処していた。
	3	3	水の都を守る ～松江の川の水質調査～	松江にあるいくつもの川の現状を調べ，課題を見つけて，水質改善をはかることで水の都を守っていくことができるのではないだろうか。	・松江市役所河川課の方から堀川の現状について聞く ・堀川での生き物調査に参加 ・堀川以外の市内の河川での水質調査	・市役所河川課での聞き取りや，生き物調査で堀川の現状に関する情報を得ることができた。また，調査方法などについても学ぶことができた。	・日程不足や天候に左右されたため，学んできた調査方法を用いて，実際に川での水質調査をすることが思うようにできなかった。また，水質を調べるためには専門の知識や器具等を要するため，専門性をもたない者が担当するのはかなり難しい。
	4	4	目指せ，環境にやさしいまち ～空気のおいしい故郷「松江」～	空気のおいしい故郷松江を守るために，手軽な緑化を進めることで環境にやさしい町づくりにつなげられるのではないだろうか。	・島根県環境政策課大気環境グループでの聞き取り ・アンケート調査の実施 ・苔による緑化を目指し，保水性，断熱性，空気清浄力の実験 ・環境フェスティバルでの発表	・当初は，ＰＭ２．５の影響を国内では大きく受けている地域であり，その問題に取り組みたいとしていたが，県庁での話を通して問題の規模が大きすぎることがわかり断念。そのことから逆に身近なところで環境問題に関心をもってもらうにはどうすればよいかという発想につながった。	・日程不足や天候に左右されたため，学んできた調査方法を用いて，実際に川での水質調査をすることが思うようにできなかった。また，水質を調べるためには専門の知識や器具等を要するため，専門性をもたない者が担当するのはかなり難しい。
	5	4	松江の川の環境問題にアクセス ～ＥＭ菌は救世主となるか？！～	松江の川の現状を調べ，その課題解決の方策を探ることで，きれいな川を守ることができるのではないだろうか。	・松江市役所河川課の方から堀川の現状について聞く ・堀川での生き物調査に参加 ・ＥＭ菌溶液づくり ・ＥＭ菌の効果の実験	・川の異臭や汚れについて，ＥＭ菌に着目して効果を確認しようと取り組んだ。ＥＭ菌溶液づくりでは，地域の方から原液を提供していただいたり，協力を得ることができた。さまざまな発想を駆使して，消臭効果などの実験に取り組んだ。	・日程不足や天候に左右されたため，学んできた調査方法を用いて，実際に川での水質調査をすることが思うようにできなかった。また，水質を調べるためには専門の知識や器具等を要するため，専門性をもたない者が担当するのはかなり難しい。
	6	3	自然エネルギーで安全なまちづくり	水の都松江にある河川の水を利用した発電で街灯を増やすことで，安心安全な町づくりができるのではないだろうか。	・中国電力松江営業所の出前講座でエネルギーの現状や発電法を学ぶ ・発電機の製作・実験 ・水力を使っての実験	・発電装置を作る際には，市役所へ何度も装置を運んだ。必要な場所や部品を確保するために，地域の方から中古の自転車を提供していただくこともあった。発電装置を完成させ，発電に成功するところまではこぎつけた。	・川での実験となると，さまざまな制約があり難しいことがわかった。日程も十分確保することができなかった。

平成28年度　Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」　活動一覧表

講座	班	人数	テーマ 住みたいまちに 結びついていること	仮説	社会参画活動の内容	成果	課題（来年度へ向けて）
生活	1	2	駅から始まる安全都市 ～危険を感じないまちを目指して～	危険な場所を記した防犯マップを人口が集中する松江駅を中心に配布することで，まちの人たちの安全への意識を高めることができるのではないだろうか。	・松江駅前交番で松江駅周辺の危険な場所を調査 ・調査した情報をもとに，防犯マップを作成する ・松江駅でマップを配布し，地元の人たちに意見をいただく	・危険な場所についての関心が高く，短時間でたくさんの人に配布できた。駅周辺の危険な場所について注意喚起できた。 ・自分自身も地元の安全に対する意識が高まった。	・外国の方々がたくさんおられた。マップは日本語だったので外国語でも記載しておくと丁寧だった。
	2	4	島根の食材を使ったスイーツで島根の良さを再発見！　～ずっと住みたい地産地消のできるまち へ～	地元の食材を使ったスイーツのレシピを考えパンフレットにして配ることで，幅広い世代や性別の人が地産地消の意識を高めることができるのではないだろうか。	・島根大学の食堂の方に学生の食生活や使う食材についてのアドバイスをいただく ・地元の食材を使ったレシピの考案 ・レシピをパンフレットにまとめる ・松江駅でパンフレットを配布して地元の人たちに意見をいただく	・地元の食材について自分なりに調べ，より地元の良さに気付くことができた。 ・スイーツのレシピにしたことで特に女性に「もらっていいんですか？」といい雰囲気でパンフレットを手に取ってもらえた。	・笑顔でハキハキと言うとよかった。 ・他の班の配布物と間違えられやすかった→色の紙の方がよかった
	3	4	余って捨てられる食材を利用して簡単に作れるレシピを広めよう ～環境によい町を目指して～	余って捨てられる食材が減れば，一人ひとりが環境に配慮した生活を心がけるのではないだろうか。	・余りやすい食材をアンケートで事前に調べる ・その食材を使って短時間で作れるお手軽レシピを考える ・レシピをみしまや学園店で掲示する ・レシピについてのアンケートで地元の人たちの反応を知る	・アンケート結果から，多くの人が「このレシピで作ってみたい」と回答し，情報発信から社会に参画できたと考えられる。	・もう少しレシピにアレンジがあると，もっと多くの人の目にとまった可能性がある。
	4	4	島根　シジミの消費量Ｎｏ．１を維持するために　～シジミを使ったレシピの考案～	シジミを使ったレシピ（シジミ汁以外）を考えてクックパッドを使って発信することで，地元島根でのシジミの消費量が全国Ｎｏ．１を維持できるのではないだろうか。	・みしまや学園店でアンケート ・シジミを使ったレシピを作成（シジミのクリームパスタ） ・レシピをクックパッドに掲載	・地元の特産である「シジミ」について自分自身がしっかりと調べることで，地元の魅力を改めて考えることができた。 ・実際に作ってくださった方が「おいしかった。」とコメントを下さった。	・クリームにしたためシジミの味わいが半減した→和風にするとよかったかも。 ・砂抜きを忘れていて調理にすぐ取りかかれなかった
	5	4	ヘルシーなスイーツでまちを健康に！　～低カロリーなスイーツを広めて健康意識を高めよう～	ヘルシーなスイーツを考案しパンフレットにして地元の人に広めれば，健康意識が高まり，まち全体が元気になるのではないだろうか。	・島根大学や松江駅でアンケート ・低カロリーな食材を使ったスイーツを考案する ・レシピを松江駅付近で配布する	・たくさんの人にパンフレットを受け取っていただいた。地元の人たちの健康意識につながったと考えられる。	・地元の食材を使ったレシピにすれば，より「地元」に愛着をもったかもしれない。 ・もっと手軽な調理法を追求したい
	6	4	バランスのとれたレシピで大学生の健康改善＆健康的な町づくり	大学生の食生活を改善することで，まちの若者が活気づき魅力的なまちづくりにつながるのではないだろうか。	・大学生協で調理をされている方に大学生の食生活の現状や使う食材についてお話を伺う ・情報をもとにレシピの考案 ・レシピ通りに調理する ・学校内の人に食べてもらう ・大学の食堂にレシピとアンケートを置いて，大学生の反応を知る	・多くの大学生にレシピを見てもらい，家で作ったというアンケートの回答もあった。	・より簡単で低コストなメニューを追求したい。 ・レシピ通りに作った後に，食堂の方々に食べていただくことができなかった（日程等の調整がうまくいかなかった）。
	7	2	松江の魅力を再発見！ ～ウォーキングマップで地元の人に地元の良さを知ってもらおう～	地元（城北地区）の人に地元の魅力を盛り込んだウォーキングマップを発信することで，地元の人が地元の良さを再発見し，地元の活性化につながるのではないだろうか。	・城北公民館で地区の歴史や建造物について話を聞く ・集めた情報をもとに地元の魅力を盛り込んだウォーキングマップを作成 ・公民館に置かせてもらい，アンケートを募集して地元の方々の反応を知る	・多くの地元の方にマップを手に取っていただき，発信ができた。 ・自分自身が地元の魅力について考える良い機会となった。	・マップの中にアンケートを盛り込んでおくことを忘れていて，二度手間だった。

平成28年度　Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」　活動一覧表

講座	班	人数	テーマ 住みたいまちに 結びついていること	仮説	社会参画活動の内容	成果	課題（来年度へ向けて）
観光	1	4	観光客を増やし，人がたくさん来る活気のあるまち	隠岐をＰＲすれば，隠岐，島根の観光客が増えるのではないか。	・隠岐の島をＰＲする動画→時間の関係上パンフレットに ・ターゲットは県外の若い人 ・パンフレットの内容…隠岐の絶景 ・隠岐の写真を隠岐在住の方に依頼→ローソク島，壇鏡の滝，白島海岸，乳房杉，油井の前の洲，西郷岬灯台 ・隠岐出身の実習生にもインタビュー ・それらをパンフレットにまとめ，松江駅で配布	・パンフレットを渡すことで，隠岐の名所を少しでも知ってもらえた。 ・県外の人にもパンフレットを渡せた。	・若い人にあまり渡せなかった。 ・思ったより，絶景よりも食べ物の方が多かった。 ・もっと県外の人に渡せるとよかった。 　→隠岐は，同じ県民でも知らない所も多く，良いところだと思った。若者でも十分楽しめる絶景スポットが多いので，もっと知ってもらいたい。
	2	5	松江の魅力を多くの人に伝える	観光客の人，松江の人にパンフレットを通して松江の魅力を再発見してもらえば，松江が好きになり，住んでみたくなって人口増加につながるのではないか。	・松江城，ヴェルデ川津店(みしまや)でアンケートをとる ・それをもとにしたり，インターネット等で調べたりしてパンフレットをつくる(松江城，月ヶ瀬，八雲庵，堀川遊覧船，由志園) ・完成したパンフレットを松江駅で配布	・松江のよさを少しでも知ってもらえることができた。 ・調べる中で，自分たちが知らなかったことも知ることができた。	・松江の人はもう知っていることが多いパンフレットだったので，もっと知っている人が少ないようなお店や自然などの気候面についても発信すれば良い。 ・外国の方々の中には，あまり松江のことを知らない人もたくさんいる 　→これからは，日本語のパンフレットだけではなく，外国の方にも伝わりやすいような外国語のパンフレットをつくっていくべき。
	3	5	観光によるまちの活性化プロジェクト	島根の魅力に関するポスターや動画を配信することで，観光客増加につながるのではないか。	・島根大学，松江城でアンケート ・それをもとにポスターや動画を作成 　動画１：アンケート結果をまとめたもの 　動画２：島根の名所をまとめたもの 　ポスター：島根の名所ランキング(アンケートの結果) ・そのポスターを島根県立美術館，島根県立古代出雲歴史博物館，松江城興雲閣 ・動画をYouTubeで配信	・ポスターを掲示することで，島根の魅力を多くの人に知ってもらうことができた。	・島根県外にもポスターを掲示する
	4	5	もっと島根を知ってもらおう	県外の人に，松江の魅力だけではなく，出雲の魅力もＰＲすれば，観光客も増え，人口増加につながるのではないか。	・松江城でアンケート ・実際に出雲に行って魅力を発見する(写真や動画を撮る) ・それをもとに，まとめの動画と紙芝居を作成	・出雲の魅力を動画にまとめることができた。	・より多くの人に動画をみてもらうためには，どうすればよかったのか。 ・動画が文字ばかりになってしまって，文字以外でも伝える方法はなかったのか。(見せ方の工夫) ・出雲だけでなく，松江の人口減少をくいとめるために松江の魅力についても考えた方がよかった。
	5	5	女性にとって魅力的な島根県をそば粉でＰＲ	〈名物そば粉のクッキー＋ヘルシー〉で興味をもってもらい，それと島根の良いところをまとめたパンフレットを配布すれば，島根を好きになり，“住みたい”という思いにつながるのではないか。	・島根大学の県外生にアンケート ・そのアンケートからそば粉を使ったヘルシーなそば粉クッキーを作る ・そのレシピと島根の魅力を書いたパンフレットを作る ・クッキーとパンフレットを松江駅で配布	・そばのおいしさや女性にやさしい「島根」をＰＲできた。 ・直接観光客と触れ合うことができたので，反応が見れて，興味をもってもらえたのだという実感がわいた。 ・外国の方にも英語で対応し，配布したことで，他県にとどまらず，海外にも発信していくことができた。 ・クッキーを一緒に配布することで，パンフレットに興味をもってもらうことができた。	・外国の方に配布することはできたが，パンフレットが日本語であり，自分たちが何のためにクッキーを配っているのかということや，このクッキーが何でできているのか本当に伝わっているのかがわからなかった。 　→英語版を作ったり，英語で説明したりする練習をしておけばよかった。 ・女性をターゲットにしたことは成功だったが，駅には出張で来ている男性が多かったので，そのことを生かせば，もっとたくさんの人に伝えられると思う。 ・女性だけでなく，子どもや外国の方を対象にしたものも考えるべき。

平成28年度　Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」　活動一覧表

講座	班	人数	テーマ 住みたいまちに 結びついていること	仮説	社会参画活動の内容	成果	課題（来年度へ向けて）
教育	1	4	音楽のあふれるまちをつくろう	子どもが音楽に触れる経験を増やせば，音楽のあふれる気持ちよく暮らせるまちづくりにつながるのではないか。	・附属幼稚園児を対象に ①生の演奏を聞いてもらう ②楽器の演奏を体験してもらう	・園児にとても喜んでもらえた。 ・楽器体験も思った以上にうまく行った。	・幼稚園の先生に多くのサポートをいただいた。自分たちでもっと上手にできるようにしたい。 ・今後どのように活動を継続していくか。同じ附属であることを生かしたい。
	2	4	好きなことに挑戦できるまち ～音楽体験を通して～	地元の中学生の演奏活動に触れることで，松江で得意なことや好きなことを伸ばしていこうという意欲を育てられるのではないか。	・たまち保育園児を対象に ①生の演奏を聞いてもらう ②音楽についてのクイズを体験してもらう ③記念品をつくって渡す	・園児にとても喜んでもらえた。 ・園歌をとても元気よく歌ってくれて嬉しかった。練習していったかいがあった。 ・記念品も上手に作れた。お返しをもらって驚いた。 ・テレビの取材が来ていて緊張したけど落ち着いて演奏できた。	・会場準備や進行など，園の先生にお世話になる部分が多かった。もっと自分たちでできるように事前の打ち合わせを繰り返し行う必要がある。 ・今後どのように活動を継続していくか。
	3	5	マナーを守って地域を好きになる	小さい頃からマナーについて学んで学校や地域を好きになれば，マナーを守り地域を支える大人に育つのではないか。	・育英北幼稚園児を対象に紙芝居によるマナー講座を行う	・本番前にリハをやったことでうまくできた。 ・園児の反応がとても元気で，しっかり考えてくれていて嬉しかった。	・メールでのデータのやりとりはいろいろと支障があってうまく行かなかった。事前打ち合わせをしっかり行いたい。 ・マナー向上の取組をどう継続していくか。
	4	5	運動で誰もが元気なまちづくり	小さい頃から運動に親しむ機会を増やすと，年を取っても健康で元気に過ごせ，高齢化が進んでも活力のあるまちになるのではないか。	・嵩見保育所児童を対象にミニ運動会を開催する。	・広い校庭での活動を喜んでもらえた。送り迎えもスムーズにできた。 ・当日は，保育所の先生と相談しながら臨機応変に予定変更ができた。	・気温が高く，熱中症予防のため時間短縮した。天候に応じた対策が必要だった。 ・近所の保育所なので，今後も活動を継続できるといい。
	5	4	島根のよさを発信してもっと住みたくなるまちへ	外国人に島根のよさを発信すれば，島根のよさが世界に広まり，少子化の進む島根に外国人などが多く入ってくるようになるのではないか。	・島根大学の留学生に ①島根のよさをプレゼンする。 ②抹茶体験をしてもらう。	・抹茶体験は留学生達に好評だった。ういろうも試作段階から上手に作れた。 ・フィールドワークを生かして，島根だけでなく附中の紹介も行うことができた。	・留学生の参加者集めをセンターにすべてお願いする形になってしまった。 ・学校からござを運んだり，材料費がかかったりと，思ったより手間がかかったのが課題。 ・教育学部調理室をお借りしたが，学外には基本的に貸し出さないようなので，今後は場所も考える必要がある。

平成28年度　Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」　活動一覧表

講座	班	人数	テーマ 住みたいまちに 結びついていること	仮説	社会参画活動の内容	成果	課題（来年度へ向けて）
福祉	1	3	みんなが笑顔になるまちにしよう！	病院でコンサートなどをして，患者さんの笑顔が増やせれば，住みたいまちに近づくのではないか。	・赤十字病院の病院祭で，コンサートを開催する	・笑顔にすることができた。 ・自分の強みの音楽を活かすことができた。	・練習時間が足りなかった。
	2	4	障がいのある人もすみよい町にしよう！	盲導犬が少ないのではないか。	・朝日訓練センターや視覚障がい者の方，ライトハウスライブラリーの方から話を聞き，視覚障がい者の方が暮らしやすいように，動画を作り，呼びかける	・学校内の友達や先生に知ってもらえた。 ・視覚障がい者の方に対して，手助けの方法を教わった。	・松江市の多くの人に伝えることができなかった。
	3	4	お年寄りが健康で暮らしやすいまちにしよう！	健康について，いろいろなことを知ってもらうことで，お年寄りが健康で暮らしやすいまちになるのではないか。	・城東公民館で，高齢者と一緒に健康的なスイーツ作りと体を動かすゲームをして，交流する	・多くの人に参加してもらい，健康的な食材を用いたクッキーのレシピを紹介することができた。 ・様々な人と交流をすることができた。 ・クッキーのレシピを喜んでもらえた。	・もっとたくさんの人に知ってもらうようにするために別の活動を考えたい。
	4	5	誰もが安全に暮らせるまちにしよう！	たくさんの人が譲渡会に行くようになり引き取ってくれれば，殺処分される動物の数が減るのではないか。	・保健所に行き，現状を調べ，それをポスターにまとめ，貼る ・譲渡会の参加への呼びかけを，ポスターにまとめ，貼る ・譲渡会の活動をボランティアとして，参加する	・犬や猫などの動物を捨てないように呼びかけることができた。また，譲渡会への参加も呼びかけることができた。	・譲渡会に多くの人が参加してくれたが，実際に譲渡されたのは２匹と少なかった。
	5	4	みんなが幸せに生きられる町にしよう！	殺処分についての現状を知ってもらえば，もっと興味をもつのではないか。	・保健所で現状を聞き，それをポスターやパンフレットにまとめ，店に貼ってもらったり，直接配ったりして，現状を知ってもらう	・ポスターやパンフレットで呼びかけることができた。	・もっと殺処分される犬やねこに直接触れて，実際に引き取ってもらえるような活動を行うと良かった。

平成28年度　Bridge Ⅲ「他と共に社会に参画する」　活動一覧表

講座	班	人数	テーマ 住みたいまちに 結びついていること	仮説	社会参画活動の内容	成果	課題（来年度へ向けて）
ものづくり	1	3	電気をつくって地域の方々に利用してもらう	自分たちの力で電気をつくることができれば，地域の方々に利用してもらえるのではないだろうか。	・様々な発電方法の検討 ・自転車発電で大きな電力を得る ・発生させた電力を二次電池に充電し，ケイタイ・スマホの充電に利用してもらう	・大きな電力を得るために，自転車で自動車用発電機を動かすことに挑戦した。 ・自転車発電以外にも，エネルギー変換による起電力の発生を確認している。	・自転車発電の仕組みの理解までは確認できたが，大電力を得るところまではできなかった。
	2	3	松江のエネルギー消費の問題を需要と供給の両方から考え，地域に発信していく	エネルギー消費の削減を訴え，電気を生み出す方法を紹介することで，電力の需要と供給のバランスを考え，適切な利用への意識が広がるのではないだろうか。	・電気利用についての街頭アンケートを行う ・電気利用の実態調査や器具の電力消費の測定から，電力消費の縮小を訴える ・自転車発電など，自分たちで作ることのできる発電を模索する	・アンケートから家庭の電力消費の傾向をとらえ，その電気を作る方法を体感するような方法を考えた。 ・大きな電力を得るために，自転車で自動車用発電機を動かすことに挑戦した。	・自転車発電を考え，電気を作ることの大変さを体感できるようにしたかったが，製作に時間がかかり，目的の発電機の完成に至らなかった。
	3	3	島根で可能な発電方法を考える	島根で可能な発電方法を考え，特に再生可能なエネルギーによる発電方法を検討し，可能性を見出すことができれば，これからの電力需要に対して一石を投じることができるのではないだろうか。	・島根で可能な再生可能エネルギーによる発電方法を考える ・エネルギー変換の原理を調べ，そのモデルを作る ・発電方法の可能性を考え，紹介する	・発電方法の原理を調べ，現在島根県で実用化されている発電方法とエネルギー変換の仕組みをまとめた。 ・現在行われていない発電方法で，島根県でも可能な発電方法の可能性を探り，バイオマス発電についての考察を行っている。	・モデルの製作，原理の実験に時間を費やしたため地域への発信ができなかった。 ・環境フォーラムで発表したい
	4	4	しじみの殻でチョークを作ろう	宍道湖・中海で大量に水揚げされて消費されるしじみの殻は，大量に捨てられている。このしじみの殻を有効利用することができれば，ごみを減らし，資源として活用し，新たな産業へとつなげることができるのではないか。	・ごみとして廃棄されるしじみの殻の利用方法を考える ・しじみの殻を利用したもの（チョーク）をつくる ・製作したチョークを紹介し，使用する	・しじみの殻を粉砕，加熱処理をしてチョークに使用できる粉末にすることができた。 ・小さく使えなくなったチョークを混ぜることで，安定した形状になりやすいことも分かった。 ・崩れやすいものの，十分にチョークとして利用できるものが完成した。	・チョークを固める“のり”の検討にはいたらず，崩れやすいところを改善したい。 ・加熱工程の効率が悪く，大量に処理できず，コストもかかるため，実用化できない。 ・商品化できるようになれば，地域貢献になる可能性を秘めている。
	5	4	家庭からでる不要物の利用を考える	ゴミや不要物，家庭でたまってしまうものから，有用なものづくりができれば，ゴミを減らすことができ，美しい町で，より豊かな生活ができるだろう。	・家庭から出るゴミや不要物などからものづくりができないかを考える ・環境にやさしいものや見た目にもきれいなものづくりをし，生活にゆとりを感じられるものづくりをする ・つくったものを紹介し，実際に使用してもらい，そのものづくりの評価を行う	・古新聞によるエコバッグや使用済みのコーヒーによる脱臭剤など大量の製作をおこない，多くの方々に利用してもらうことができた。 ・身近な不要物の簡単な利用法を見つけることができ，紹介することができた。	・きれいな町，観光地松江とのつながりはPRできなかった。 ・松江駅で配布したが，趣旨説明や使用したものの評価は得られないため，紹介の仕方などを検討する必要がある。
	6	4	おからの再利用	産業廃棄物や廃材などを利用したものづくりができれば，産業が発展するだけでなく，環境保全にもつながり，よりすみやすい街づくりにつながるだろう。	・松江で廃棄されるものの中で，どのようなものをどのようにものづくりにつなげられるかを考える ・豆腐店からでる大量のおからの利用方法を考える ・おからを利用してつくった食品などを実際に食べてもらい，感想を聞く	・大量に廃棄されるおからの利用方法を見つけた。 ・おから茶など簡単で利用しやすい内容を紹介できた。	・燃料としての利用も考えたが，食品としての応用のみ成功したため，廃棄物の一部利用にとどまっている。 ・生産・紹介などが限定され地域・社会とのつながりをひろげることができなかった。

学習活動③【３年生】（iii）発表会

(1) 学習発表会について

＜発表会の流れ＞
①全体発表会（14:00～14:40）
対象：全校生徒，保護者・外部参会者の方
内容：３年生の取組の説明
会場：体育館
②対面発表会（14:50～15:50）
対象：２・３年生，保護者・外部参会者の方
内容：グループに分かれての活動報告
会場：２・３年各教室，特別教室，体育館

発表会は，上記のように二部構成で行った。①②ともに保護者並びに外部関係機関に案内を出し，参会を呼びかけた(**図１**)。

①は３年生の取組の大枠を伝える目的で，対象を全校生徒とした。②は２・３年生を対象に行った。各グループの具体的な社会参画活動の報告をし，２年生の次年度の取組の参考になることを期待した。また，３年生がお互いの活動を知り，将来への課題を考え，さらなる社会参画のきっかけになることも期待した。

図１　全体会場の様子

（ｉ）　全体発表

全体発表は，プレゼンテーションソフトを使って，各学級の「総合的な学習の時間」係４名と６つの講座の各代表６名の合計 10 名の生徒での生徒で進行した(**図２**)。まず，３年生の取組の概要を説明し，次に６つの講座ごとの取組・活動の概要を説明した。

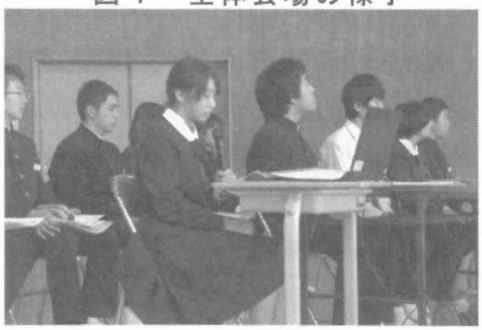


図２　全体発表の様子

（ii）　対面発表

対面発表は，22 グループが 12 会場に分かれて行った。２・３年生ともに６～７人ずつ，合計 113 人が１グループになり，３年生一人一人が活動報告を行った(**図３**)。各会場の３年生は，６つ座が全て含まれるようにグルーピングした。

個人の発表時間は６分間で，その中に２年生からの質問時間も含むこととした。全体司会は各会場の担当教員が行ったが，発表前に発表者自身がタイマーをスタートさせ，上手にできないときには，担当教員がフォローをした。

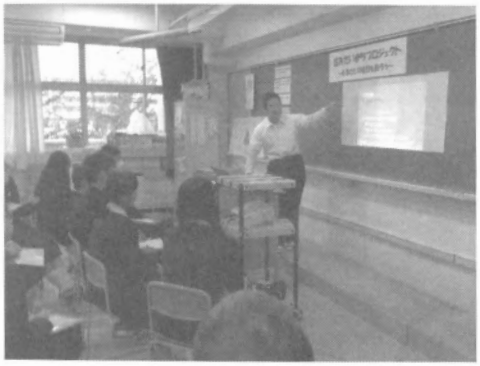


図３　対面発表の様子

① 対面発表の会場配置について

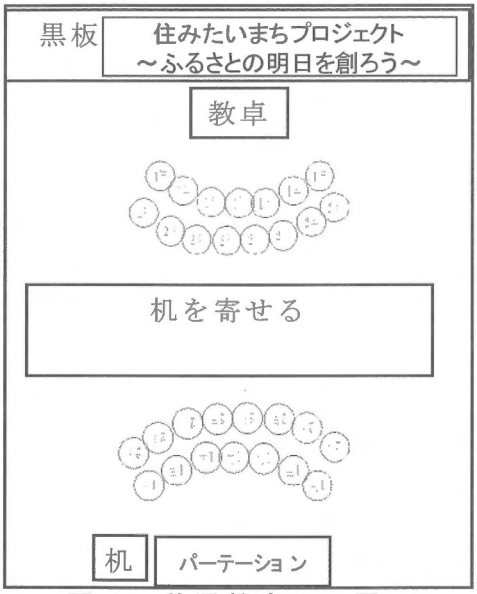


図４　普通教室の配置

普通教室では，１つの会場で２つのグループが発表できるように配置した(**図４**)。２年生を前列，３年生を後列とし，発表者が提示したものが２年生に見やすくなるように配慮した。教室を前後に分けて発表会場としたが，教室中央に机を寄せ，パーテーションとしたので，お互いの発表が気になることはあまりなかった。

「住みたいまちプロジェクト～ふるさとの明日を創ろう～」と記した大きな横幕を準備して各発表会場に設置した。生徒の発表への気分を高める一助となったと考える。

② ３年の相互評価と２年の発表メモについて

３年生は，「お互いの発表の良さ，改善点を伝えることを通して，発表力の向上を目指す」ことを目的に相互評価を行いながら発表を進めた。

一方，２年生は，「発表者が社会参画活動を通して考えた「住みたいまち」について」「来年の活動に向けて，参考にしたいことついて」の２点に視点を当てて，ワークシートにメモをしながら発表を聞いた。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

・今後の学習でも関係諸機関とのさらなる連携を深めていくために，ご協力いただいた方々を発表会に案内し，生徒たちの取組・活動の成果を見ていただいた。

＜全体発表＞

・プレゼンテーションに当たっては，文字による情報量が多くならないように，キーワードになる言葉を精選した。また，写真を多用し，イメージとしてとらえやすいようにしたため Information 総合での学習内容を生かすことができた。

・６つの講座の概要説明のためのプレゼンテーションは，あらかじめ様式を統一した。このことにより分業して作成したものを１つにまとめる際に統一感が生まれ，見やすいものができた。

＜対面発表＞

・３年生のグループ分けは，１グループの中に必ず６つの講座が含まれるようにした。

・２・３年生それぞれの聞く視点を変えて行ったので，それぞれが目的意識をもって発表に臨むことができた。

学習活動③【３年生】（ⅳ）ふりかえり

(1) 「総合的な学習の時間報告書」の作成

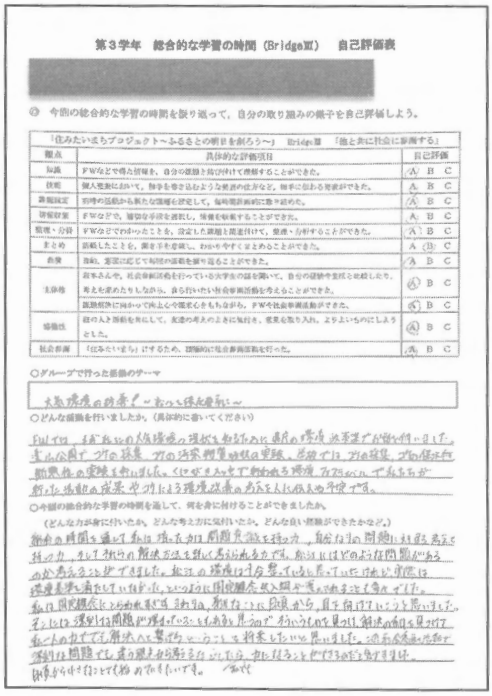
今年度のBridgeⅢの締めくくりとして，また，３ヵ年の総合的な学習の時間のまとめとして報告書の作成に取り組んだ。フィールドワークや地域での体験学習等を通して見付けた課題にどのように取り組み，住みたいまちにどれだけ迫ることができたかを振り返り，学習の成果と課題を明らかにして報告書にまとめた。報告書にまとめることで，成果と課題を記録に残して引き継ぐことができ，それによって次年度以降の活動は継続性をもちながらより充実したものになっていくと考えた。

まず，グループでポートフォリオや発表資料等から今年度の活動を振り返った。フィールドワークではどのような場所に行きどのような課題を見付けたか。体験活動では，どのような人たちと関わり何を学んだか。どのグループも資料を見直しながら積極的に本学習の成果や課題を出し合うことができていた。

【例】環境講座「宍道湖の環境保全」グループ

研究所訪問，浄化作用実験，旨み成分検証実験，環境フェスティバルでの発表等の活動を通して「環境都市松江を目指し，シジミを守ることで美しい宍道湖を保全する」というテーマに迫った。シジミを増やしていけば宍道湖の環境が守られることを立証し，多くの人たちに発信できたことを成果としてまとめた。一方，一時期のシジミ減少の原因究明や現在の宍道湖の環境調査にまでは着手することができなかった。今後も継続して活動していくことを次年度以降に期待したい。

このように，報告書の作成を通して今年度の学習の成果とともに改善点や問題点も浮かび上がった。いったん学習が始まると様々な制約の中で時間に追われ，じっくりと改善点を洗い出したり軌道修正を図ったりすることは難しい。そのため，学習の最後に振り返りを行い，その内容を次年度に確実につなげていくことが重要であると考える。単年度あるいは在学中の３ヵ年で完結させようとするのではなく，長期的に改善を重ねながら本校の学習を充実させていくことを大切にしていきたい。



第３学年　総合的な学習の時間（BridgeⅢ）　自己評価表

[redacted]

◎　今回の総合的な学習の時間を振り返って，自分の取り組みの様子を自己評価しよう。

「住みたいまちプロジェクト～ふるさとの明日を創ろう～」　BridgeⅢ　「地と共に社会に参画する」		
観点	具体的な評価項目	自己評価
知識	FWなどで得た情報を，自分の課題と結び付けて理解することができた。	Ⓐ B C
技術	個人発表において，聞き手を引き込むような発表の仕方など，様々に工夫する発表ができた。	Ⓐ B C
課題設定	別時の活動から新たな課題を設定して，毎時間計画的に取り組めた。	Ⓐ B C
情報収集	FWなどで，適切な手法を選択し，情報を収集することができた。	Ⓐ B C
処理・分析	FWなどでわかったことを，設定した課題と関連付けて，整理・分析することができた。	Ⓐ B C
まとめ	活動したことを，聞き手を意識し，わかりやすくまとめることができた。	A Ⓑ C
表現	自分，友達に応じて時間の活動を振り返ることができた。	Ⓐ B C
主体性	友達さんや，社会参画活動を行っている大学生の話を聞いて，自分の経験や意見と比較しながら，考えを深めたりしながら，自ら行いたい社会参画活動を考えることができた。	Ⓐ B C
	課題解決に向かって自主心や関心をもちながら，FWや社会参画活動ができた。	Ⓐ B C
協働性	仲の人と活動を共にして，友達の考えのよさに気付き，意見を取り入れ，よりよいものにしようとした。	Ⓐ B C
社会参画	「住みたいまち」にするため，積極的に社会参画活動を行った。	Ⓐ B C

○グループで行った活動のテーマ

大気環境の改善！～おっさん保全隊～

○どんな活動を行いましたか。（具体的に書いてください）

FWでは，まず私たちの住む環境の現状を知るために，身近の環境汚染状況がどのようになっているかを調べました。また公園やプールの採集，プールの水質調査，地域の実態の実験を行いました。くりかえしやってみて，初めの頃の環境，方法のいろいろで，私たちが新たな地域の発見や，プールによる環境改善の方法を人に伝えるための手段です。

○今回の総合的な学習の時間を通して，何を身に付けることができましたか。

（どんなことが身に付いたか。どんな考え方に変化したか。どんな良い経験ができたかなど。）

約束の時間を通して私は，様々な問題点を見つけ，問題点を解決する力，自分なりの問題に対する考え方の力，そして，それらの解決方法を考える力などが，身に付いたと思います。身近にはどのような問題があるのか考えることができました。松江の環境は，十分整っていると思っていたが，実際は環境基準に満たしていなかった，というように，固定観念や，先入観が覆されることもありました。

私は，固定観念にとらわれることが，多いなあ，駄目だなと思ったから，自分の目を向けようと思いました。そこには，深刻な問題が隠れている，ものもあると思うので，小さなものを見つけ，解決の糸口を見つけて，私一人の力でも，解決に繋がるようにしたいと将来したいと思いました。この約束の時間で，深刻な問題でも，皆の頭を合わせ，考えたら，何とかなることができるのだなと，改めて，身に付けさせていただいたなあと思います。

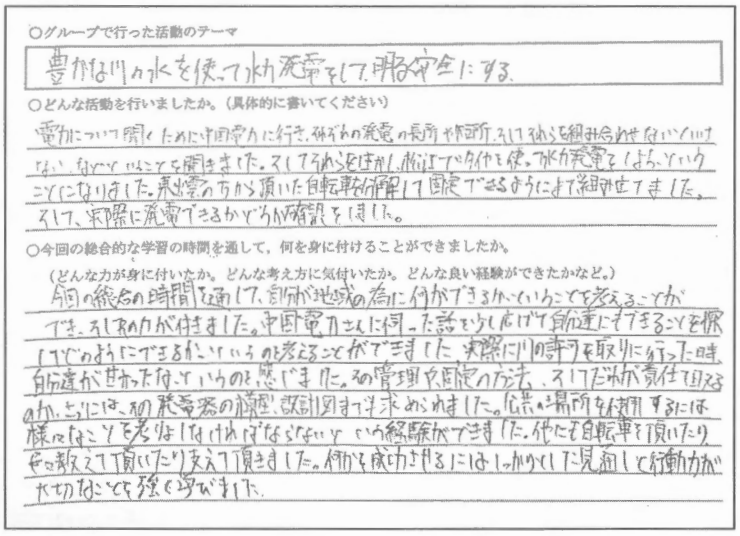
図１　総合的な学習の時間の自己評価表

(2) 総合的な学習の時間（BridgeⅢ）自己評価

グループでの報告書の作成に合わせて，個人でも自己評価を通して学習のふりかえりと締めくくりを行った。

例えば，「松江の環境についてはわかっているつもりで，十分整っていると思っていた。実際は環境基準を満たしていなかったというように固定観念，先入観が覆されることが多々あった」という生徒は，「身近なことに日頃から目を向けられるようになった」ことを身に付いた力として挙げた（**図１**）。

また，「豊かな川の水を使って水力発電をして，まちを明るく安全にする」ことを目指した生徒は，「自分が地域のために何ができるかということを考える力」が身に付いたとした。一方で，「公共の場所を使用するには，管理，安全，責任など様々なことを考慮しなければならいことを経験した」，「川で発電機を試す許可を取りに行ったが認められず，自分たちの甘さを感じた」と振り返った(**図２**)。


○グループで行った活動のテーマ

豊かな川の水を使って水力発電をして明るく安全にする。

○どんな活動を行いましたか。(具体的に書いてください)

電力について聞くために中国電力に行き，私たちの発電の長所や短所，そして強いを組み合わせないといけない，などいろいろなことを聞きました。そして私たちは，廃棄自転車を使って水力発電をしようということになりました。業者の方から頂いた自転車を分解して固定できるようにと試行錯誤しました。そして，実際に発電できるかどうか確認をしました。

○今回の総合的な学習の時間を通して，何を身に付けることができましたか。

(どんな力が身に付いたか。どんな考え方に気付いたか。どんな良い経験ができたかなど。)

今回の総合の時間を通して，自分が地域の為に何ができるかということを考えることができ，そして力が付きました。中国電力さんに伺った話を少し広げて自分達にもできることを探してどのようにできるかいいのを考えることができました。実際に川の許可を取りに行った時，自分達が甘かったなというのを感じました。その管理や固定の方法，そして誰が責任を負えるのか，さらには，初の廃棄物の活用，設計図まで求められました。公共の場所を使用するには様々なことを考えなければならないという経験ができました。他にも自転車を頂いたり，安い板を頂いたり支援を頂きました。何かを成功させるには，しっかりした見通しと行動力が大切なことを強く学びました。

図２　学習を通して身に付いた力についての記述

以上のように本時では，活動を通してどのような力が身に付いたかを自覚し，今後身に付けていきたい力を意識するというねらいを概ね達成することができた。また，『報告書の作成』によるふりかえりでは地域を見つめ直すことができたのに対し，本時の『自己評価』によるふりかえりでは自分自身を見つめ直すことができた。

「総合的な学習の時間報告書」より

○実験によってシジミには浄化作用があること，シジミの旨みは汽水で砂抜きすることで高まることを立証・発信できた。今後シジミを増やすためにはどのような環境が適しているか明らかにするために，宍道湖のシジミが一時期減少した原因を調べて欲しい。

○廃棄自転車を利用して発電機を作り，川の水で発電する一歩手前まできた。許可を取ったり細かな設計図を提出したりと問題は沢山あるが，これらをふまえて計画的に進めて欲しい。発電のメリットは必ずあるが，節電も大事!!

「自己評価表」より

○各事業所に話を聞きに行くなど地域社会に出ることで，普段中学校の中では絶対に知ることのできない世界を知れたと思う。水力発電をすると決めてからは，自然相手の大変さ，自分たちの考えの甘さばかり気付かされた。それでも小さな改善を重ねていけば納得のいく結果に近づくことがわかった。

○当初決めたテーマは規模が大き過ぎたため，途中路線変更せざるを得なかった。それでも自分たちのできることを考え，“コケ”という身近な植物に着目をしてテーマを追求できたというのが今回の総合の中で一番良い経験だった。

【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

・継続的な活動を行うとともに年度を重ねるごとに活動が充実していくように，年度ごとの成果と改善点・問題点を明らかにして，次年度に確実に引き継がせる。

・報告書の作成では地域がどのように変わったか・どれだけテーマに迫ることができたかに視点を置き，自己評価では自分自身がどれだけ変わったかに視点を置くようにする。